



変容したコンサート風景

うめ づ とき ひ こ
梅 津 時 比 古

桐朋学園大学学長
音楽評論家

クラシック音楽における現在のコンサート会場は、誰もが言うように、高齢化の象徴のような光景を呈している。同時に華やかに富裕層が跋扈している。

コンサートの内容を見る限り、ここ数年はバブル期が再来したかと思わせるようなクラシック・シーンが現出している。昨年(2019年)の11月には、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団、ケルン放送交響楽団、フィラデルフィア管弦楽団など、欧米を代表するオーケストラの来日公演が重なった。ティーレマン指揮ウィーン・フィルとメータ指揮ベルリン・フィルは、ブルックナーの《交響曲第8番ハ短調》と曲目まで一致した。なんとも豪華なことである。

こうした状況にバブル期に見られた空騒ぎはないが、新たな現象がある。それはコンサート・チケットの高価格化である。外来オーケストラ公演のチケットは、高いS席では4万円台に突入している(多くの席がS席に指定される現状もある)。夫婦やペアで行けば8万円。おいそれとは手が出ない。クラシックにおける若い人のコンサート離れが危惧されているが、これだけ高価格になれば、若い人が行けるはずもない。聴衆の高齢化は、実はチケットの高価格化にもよっている。貧富の差が激しくなった日本社会では、クラシックの高価な公演は富裕層のものになったと言って過言ではない。

日本社会における現在の貧富の差の拡大は、情報資本

主義によるところが大きい。戦後、安く働かせて高く商品を売る商業資本主義の象徴である財閥が解体され、安価な労働力を国外に求めることも大東亜共栄圏の戦犯として行いにくかった日本では、総中流化が長く続いていた。経済発展が社会の平等化と平行であったことは世界的にも極めて珍しい。

ところが平成の後半になって、世界的なSNSなどの進化に伴い、資本主義の利潤の追求の形が大きく変わった。安い労働力が容易に得られなくなった社会は、価値の差で収益をあげる(安く作って高く売る)ことから、「差異」によって需要を喚起する(情報の差で高く売る)構造的変換に入ったのである。次々に「差異」化して新しくすることで、商品は長年持つものではなくなり、たとえばスマホなど情報端末を短期間で替えざるを得なくなる。IT関係が最も特徴的にそれを推進しており、そこにいち早く目をつけたところが日本における新たな富裕層となった。文化もそれを反映する。他人と「差異」をつけるために高いコンサートは歓迎される。コンサートは富裕層の社交アイテムになり、「話題」が求められ「深み」は面倒がられる。

クラシックのコンサートを皮相的なブランドとして見る在り方は、真摯な聴衆から離れるだけでなく、演奏の深化にも寄与しない。質実に音楽性の高い演奏を行っている公演を安価に広く提供するための助成こそが求められる。今こそ、日本交響楽振興財団の出番である。

2019年度の公演活動(競輪補助事業)について

日本交響楽振興財団は2019年度、公益財団法人JKAの支援を受けて巡回公演を12回、アマチュアオーケストラの演奏会を5回開催した(別表参照)。演奏会の模様を紹介したい。

巡回公演

今回はじめて和歌山県有田市と東京都武蔵野市で巡回公演を開催した。有田公演の会場は、野球で有名な箕島高校のすぐ近くの有田市民会館。できてまだ2年ほどの会館(紀文ホール)は紀州産の木材をふんだんに使い、木の香りが漂う。ドイツ出身のガブリエル・フェルツさんが指揮する大阪交響楽団とピアノの長富彩さんが協演し、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第4番を演奏した。メインの「運命」交響曲の演奏も伸びやかで、有田のみなさんの心をしっかり掴んでいた。



指揮者体験コーナー 武蔵野公演

武蔵野公演は「家族みんなで楽しむ!オーケストラ・ファミリー・コンサート」と題し、地元在住の曾我大介さんが指揮する東京ニューシティ管弦楽団が、ビゼーの『カルメン』などを演奏した。また、乳幼児も入場できる公開リハーサルや楽器体験イベントも併せて実施

するなど、この日は家族で楽しめる「敬老の日」となった。

高山公演では、オーストリアの若手指揮者パトリック・ハーンさんとオーケストラ・アンサンブル金沢、ピアノの辻井伸行さん、フランス人女性トランペット奏者ルシエンヌさんが登場。辻井さんとルシエンヌさんがショスタコーヴィチのピアノ協奏曲第1番を協演し、国際色豊かな演奏会となった。



高山公演

岡谷公演では垣内悠希さん指揮の新日本フィルハーモニー交響楽団に、日本を代表するピアニスト小山実稚恵さんが協演、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番を演奏した。アンコール曲はスクリャービン「左手のためのノクター

ン」。左手だけで難なく弾くのを見て、会場の人々はため息をついていた。

山形公演は台風19号の影響で直前まで開催が危ぶまれた。幸い天気が回復し、指揮者の飯森範親さんも大阪から無事移動することができ事なきを得た。6月にモスクワで行われた第16回チャイコフスキー国際コンクールの上位入賞者のうち、ヴァイオリンの金川真弓さんはじめピアノ、ヴァイオリン、チェロ、フルートの独奏者が出演。台風の影響でリハーサル時間が十分取れなかったにもかかわらず、山形交響楽団と各独奏者はチャイコフスキーの協奏曲を見事に演奏していた。

伊豆公演は今回もチケットが完売し、会場は超満員。松村秀明さん指揮の新日本フィルとピアノの岡田将さんが出演し、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番などロシア音楽を演奏した。岡田さんのやさしい音色が伊豆の聴衆を魅了した。

会津若松公演は市制120周年と會津風雅堂開館25周年を記念して、円光寺雅彦さんの指揮のもと東京フィルハーモニー交響楽団とヴァイオリンの南紫音さんが出演し、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲などを演奏した。円光寺さんのおだやかな司会進行で会場の雰囲気はとてもなごやか。南さんのアンコール曲がなく、みな「なぜ?」という顔をしていたが、最後にエルガーの「愛のあいさつ」をオーケストラと協演し、大きな歓声に包まれた。

舞鶴公演は園田隆一郎さんの指揮で、関西フィルハーモニー管弦楽団とギター村治佳織さんが登場した。ロドリゴの「アランフェス協奏曲」などを演奏したが、村治さんのギターの音色は会場いっぱいの聴衆をうならせた。

新日本フィルの豊橋公演では、三ツ橋敬子さんの指揮と正戸里佳さんのヴァイオリンで、メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を演奏。豊橋はアマオケの豊橋交響楽団に代表されるように、オーケストラ活動の盛んな街であるが、正戸さんの演奏は耳の肥えた豊橋の聴衆を圧倒した。

ハーモニーホールふくいは内外の音楽家や楽団を積極的に招いて、さまざまな演奏会を開催している。今回は山田

和樹さん指揮の読売日本交響楽団とヴァイオリンのネマニャ・ラドゥロヴィチさんを招致。ハチャトゥリアンのヴァイオリン協奏曲とマーラーの交響曲第1番「巨人」の熱い演奏は福井の聴衆に深い印象を与えた。

なお、今年度も巡回公演の一環として楽器演奏クリニックを実施した。有田、岡谷、長野、豊橋の4カ所で、計30



楽器演奏クリニック 岡谷公演

名のプロ奏者が中高校生に対して実演や演奏指導を行い、学校や地元の関係者から高い評価を得た。

アマチュアオーケストラの演奏活動

アマチュアオーケストラの演奏活動は、山形市（山形フィルハーモニー交響楽団）、名古屋市（プランタン管弦楽団）、甲府市（山梨交響楽団）、大阪府八尾市（アンサンブル・フォルツァ）、西東京市（西東京ジュニア・ユースオーケストラ）の5カ所で開催した。

山梨公演では、2019年が日本とフィンランドの外交関係樹立100周年に当たることから、全曲シベリウスの作品をとりあげた。指揮は長年シベリウスを研究してきた新田ユリさん。演奏前に行われた新田さんの解説はわかりやすく説得力があり、作品を聴くうえで大きな手助けとなった。

当財団はジュニアオーケストラの活動も積極的に応援している。今年度は西東京ジュニア・ユースオーケストラが1月に登場し、ベートーヴェン生誕250年の年（=2020年）を記念して、交響曲第6番「田園」などを演奏した。



西東京ジュニア・ユースオーケストラ公演

2019年度 青少年の健やかな成長を育む活動 補助事業

（公益財団法人JKA 競輪公益資金 補助事業）

〔巡回公演〕 ※楽器演奏クリニックを実施

開催地	出演者
岐阜県 高山市	7/17 指揮 オーケストラ・アンサンブル金沢 パトリック・ハーン ピアノ 辻井伸行、トランペット ルシエンヌ
和歌山県 有田市※	7/28 指揮 大阪交響楽団 ガブリエル・フェルツ、ピアノ 長富彩
東京都 武蔵野市	9/16 指揮 東京ニューシティ管弦楽団 曾我大介、ヴァイオリン 吉江美桜 メゾ・ソプラノ 高野百合絵
長野県 岡谷市※	9/16 指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団 垣内悠希、ピアノ 小山実稚恵
山形市	10/13 指揮 山形交響楽団 飯森範親、チェロ サンティアゴ・カニョン =ヴァレンシア、ヴァイオリン 金川真弓 フルート マトヴェイ・デョーミン ピアノ ドミトリー・シシキン
静岡県 伊豆の国市	11/17 指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団 松村秀明、ピアノ 岡田将
福島県 会津若松市	11/29 指揮 東京フィルハーモニー交響楽団 円光寺雅彦、ヴァイオリン 南紫音
長野市※	12/21 指揮 東京交響楽団 円光寺雅彦 ヴァイオリン 齋藤滂緒、栗林衣李 ソプラノ 文屋小百合、アルト 石井藍 テノール 与儀巧、バリトン 近藤圭 合唱 ながの第九合唱団
岩手県 大船渡市	2020年 1/19 指揮 仙台フィルハーモニー管弦楽団 岩村力 ソプラノ 土井尻明子、アルト 菅野祥子 テノール 西野貴史、バリトン 小原一穂 合唱 けせん「第九を歌う会」in おおふな と合唱団、県内外有志
京都府 舞鶴市	1/26 指揮 関西フィルハーモニー管弦楽団 園田隆一郎、ギター 村治佳織
愛知県 豊橋市※	1/26 指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団 三ツ橋敬子、ヴァイオリン 正戸里佳
福井市	2/5 指揮 読売日本交響楽団 山田和樹 ヴァイオリン ネマニャ・ラドゥロヴィチ

〔アマチュアオーケストラの演奏活動〕

開催地	出演者
山形市	5/25 指揮 山形フィルハーモニー交響楽団 梶山和明、ギター 村治佳織
愛知県 名古屋市	6/9 指揮 プランタン管弦楽団 中村暢宏
山梨県 甲府市	6/23 指揮 山梨交響楽団 新田ユリ、合唱 コーロ・アルカーノ
大阪府 八尾市	9/29 指揮 オーケストラ・アンサンブル・フォルツァ 嶋田敬信
東京都 西東京市	2020年 1/19 指揮 西東京ジュニア・ユースオーケストラ 宮澤等、ピアノ 鎌田大翔

以上、2019年度の活動を紹介したが、巡回公演とアマチュアオーケストラの演奏活動それぞれについて当財団のホームページで詳しく紹介しているので、ぜひ参照していただきたい。

《巡回公演》

http://www.symphony.or.jp/i_annai_2019_001.html

《アマチュアオーケストラ》

http://www.symphony.or.jp/iv_annai_2019_001.html

會津風雅堂開館25周年記念事業とその先

おお たけ かず ひろ
大 竹 一 弘

公益財団法人 会津若松文化振興財団 総務班主任

福島県会津若松市は“白虎隊”や“新撰組”、最近ではNHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台としても全国的に知られています。また、ベートーヴェンの「第九」をアジアではじめて演奏した板東俘虜収容所（徳島県鳴門市）の所長が会津出身の松江豊寿であったこともあり、音楽が盛んな土地柄でもあります。特に合唱は小学生から一般の大人まで、多くの学校や団体が精力的に取り組んでおり、中学高校は全国でもトップクラスの成績を収めています。

会津若松市民の文化活動の拠点となっているのが會津風雅堂です。會津風雅堂の開館25周年記念事業として、多くの市民から要望がありながら、費用の面でなかなか手が出せなかったフルオーケストラの演奏会を、この機会に開催できないものかと思案しておりました。

そこで、2011年の東日本大震災直後に、レポリューション・アンサンブル（東京藝大出身者を中心とするアンサンブル）による学校訪問公演でご一緒させていただいた日本交響楽振興財団に相談したところ、会館の空き日などの制約にもかかわらず、各団体と交渉していただきました。さらに、競輪の補助事業の活用というご提案までいただいて、東京フィルハーモニー交響楽団演奏会という願ってもない機会を得ることができました。指揮者の円光寺雅彦さんやヴァイオリンの南紫音さんの演奏はもとより、当方の希望を反映させた演奏プログラムまでもお客さまからも大変なご好評をいただき、まさに記念事業にふさわしい演奏会となりました。本当に感謝しかありません。

当財団は長年、会津若松市内の小学5年生と中学2年生を対象に鑑賞事業を行うほか、会津に関する題材を採り上げた市民劇を3年に1度のスパンで開催していますが、これだけ好評を博した公演はそうありません。また、「はじめて生のオーケストラを聴いた」という方に多くご来館いただきました。このような大型で魅力的な公演を定期的に開催できれば、地域の活性化につながります。競輪の補助によるご支援は今後ともぜひお願いしたいと思っています。併せて、会津若松市出身の新田祐大選手の「ケイリン」での大活躍も祈念しています。



会津若松公演

村治佳織さんと共演させていただいて

ふく だ しん いち
福 田 真 一

山形フィルハーモニー交響楽団 団長

2019年5月25日（土）、日本交響楽振興財団様とともに2019山フィルファミリーコンサートを山形市民会館大ホールにて開催いたしました。

山形フィルハーモニー交響楽団は、山形市を本拠に活動しています。団員は約80名で、年齢は10歳代から80歳代、職業もバラエティに富んでいますが、音楽、楽器を演奏することが大好きという共通の思いでつながっています。1952年の創設以来、質の高い音楽を山形から発信できればと活動を続けてきました。1994年に榎山和明さんを音楽顧問にお迎えしてからは、「音楽にプロとアマの垣根はない」という考えのもと、ヴァイオリンの千住真理子さん、チェロの藤原真理さん、俳優の故熊倉一雄さんなど、さまざまな方との共演の機会をいただけてきました。

このたびのコンサートは、競輪の補助を受けて行ったもので、榎山和明さんの指揮により、ドヴォルザークの交響曲第8番、シベリウスのカレリア組曲を演奏しました。さらに、日本を代表するギタリストの村治佳織さんを当団として初めてお迎えし、ロドリゴのアランフェス協奏曲を演奏しました。村治さんと共演するというに加え、PA（ギター音量や音質を調整する装置）の設置など初めてのことが多く、緊張しながら本番前日のリハーサルを迎えることとなりましたが、村治さんの優しいお人柄とギターが奏でる美しくもあたたかい音色に触れ、最初の緊張は演奏できる喜びへと変わっていきました。リハーサル前、PAの調整のために村治さんがちょっとしたフレーズを演奏されるたびに、客席の最前列で目を輝かせながら聴いていた団員たちが「おおおお」と小さく歓声をあげている姿も面白かったです。おかげさまで会場はほぼ満員となり、団員も1曲目からアンコールの「フィンランディア」まで、とても集中して演奏することができました。

最後になりましたが、今回のファミリーコンサートでは、日本交響楽振興財団の皆様をはじめ多くの方々にたいへんお世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

特別支援学校オーケストラコンサート 2019

日本交響楽振興財団はオーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)と瀬戸フィルハーモニー交響楽団の協力を得て、5月31日に石川県七尾市で、6月28日には香川県普通寺市で特別支援学校オーケストラコンサートを開催しました。

七尾の会場は七尾市文化ホール。七尾特別支援学校やその輪島分校、七尾東雲高校などの児童生徒を対象に、指揮者の松井慶太さんがお話や司会進行を担当するとともに、フル編成のOEKを指揮しました。

普通寺では、瀬戸フィルハーモニー交響楽団の弦楽八重奏団が県立普通寺養護学校と四国こどもとおとなの医療センターの2カ所を訪問して、演奏会を開催しました。今回は普通寺公演の様を中心に報告します。

普通寺養護学校

台風3号の影響で前日はほぼ1日雨だったのに対して、演奏会当日は気温が31度まで上がる天気となりました。養護学校の体育館は校舎の2階にあり、風通しのよい作りになっていますが、さすがに午後ともなると気温も湿度も上がり、扇風機数台を回しての演奏会となりました。

司会の天津奈美子さんの明るく元気な声でコンサートがスタート。オープニングはエルガーの「愛のあいさつ」です。会場全体に美しいハーモニーが響き渡ります。つづいてパッヘルベルの「カノン」、さらにジブリ映画の「君をのせて」「となりのトトロ」と、子どもたちにもなじみのある曲が続けて演奏されました。

弦楽合奏の名曲といえばヴィヴァルディの「四季」。この日は「四季」のなかでもとりわけ有名な「春」が演奏されました。拍子をとりながら聴いている子もいます。

このあと8人の演奏者の紹介があり、つづいて第1ヴァイオリンの上野眞樹さん(広島交響楽団コンサートマスターなど歴任)が楽器の構造や音色について説明してくれました。

その後、各楽器の即興演奏が行われました。上野さんが各奏者に演奏曲をリクエストします。ときどきわざと意地悪して、難曲をお願いすることもあります。第1ヴァイオリンの田淵彩華さんにはパガニーニの「24の奇想曲(カプリース)」の第24番。これは難曲です。田淵さんはほかの曲を演奏してもよかったのですが、みごとに演奏。つづくヴィオラの江口志保さんは「大きな古時計」、チェロの野村侑花さんは「星に願いを」を演奏。外国の曲がつづいたので、コントラバスの石川徹さんは日本のアニメソング「ゲゲゲの鬼太郎」。しっとりした演奏があると思えばユーモアたっぷりの演奏もあり、会場を沸かせてくれました。

ふたたび合奏に戻り、アンダーソンの「プリンク・プランク・プランク」の演奏が始まりました。あれ、だれも弓で弾いていない！みな指で弦をはじいている。そう、ピチカートによる演奏です。

次の曲は「夢をかなえてドラえもん」。子どもたちはみな大よろこびです。つづいて、夏も近いことから、日本の夏の情景をうたった唱歌「夏は来ぬ」「海」(♪松原遠く消ゆるところ～)「浜辺の歌」がメドレーで演奏されました。

つづいて「世界に一つだけの花」が演奏されました。子どもたちはうれしそうな顔をし、先生方からは笑みがこぼれます。そのあとはモーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」。およそ230年前の曲ですが、よく知っている曲なのか、身体を揺らしながら聴いている子もいました。

最後の曲はテレビでもおなじみの「情熱大陸」。曲名のとおり瀬戸フィルのみなさんは情熱的に演奏し、子どもたちは手拍子で応えます。これで演奏は終了です。

最後に子どもたちの代表からお礼の挨拶があり、楽しいコンサートはおひらきとなりました。



四国こどもとおとなの医療センター

普通寺養護学校はもともと隣接する「四国こどもとおとなの医療センター」に入院・通院し、病気を治しながら学習できる特別支援学校として設立されました。そこで、この日は医療センターでも演奏会を開催しました(演奏曲目は一部を除いて養護学校と同じ)。

こどもとおとなの医療センターという名称が示すように、小さな子どもからお年寄りまで多くの患者さんが入院しており、患者さんたちには時間の許す範囲でコンサートを聴いてもらいました。途中の入退室は自由です。

会場となった集会室まで移動が困難な入院患者さんには、6月に導入したばかりの中継システムを使って演奏を届けました。はじめての中継ということでしたが、院内にある約400台のテレビにはリアルタイムで映像が映し出され、病室の患者さんもコンサートを楽しむことができました。

演奏会終了後、医療センターからお礼の言葉が届きました。「本日は、素晴らしいコンサートを開いていただきありがとうございました。大勢の患者さんに来ていただき大好評でした。また、病室のテレビにコンサートの模様をはじめて中継しましたが、入院患者さんから「病室でコンサートを見られるとは思わなかった。感激した」との声もいただきました。当院にとって生中継第1号に相応しいイベントとなりました。心より感謝申し上げます。」

〔2019年度 特別支援学校オーケストラコンサート〕

開催地	開催日	会場名(学校名ほか)	出演者
石川県七尾市	5/31 (金)	七尾市文化ホール (七尾特別支援学校、 同輪島分校、七尾東 雲高校 ほか)	オーケストラ・アンサンブル金沢 指揮 松井慶太
香川県普通寺市	6/28 (金)	香川県立普通寺養護 学校	瀬戸フィルハーモニー交響楽団 メンバー(弦楽八重奏)
		四国こどもとおとなの医 療センター	



最大の目的は聴衆を増やすこと

ま じま ゆう だい
真 嶋 雄 大

音楽評論家、プロデューサー
日本演奏連盟専門委員、真嶋雄大の面白クラシック講座主宰

音楽評論を生業として数十年が経つ。演奏会には年間で200回以上足を運ぶ中で、いつも疑問に思うことがあった。それは果たしてクラシック音楽を好む聴衆が増えているのであろうかということ。むろん日本全国では毎日膨大な数のコンサートが開かれているし、西洋音楽が日本に流入した頃のことを思えば飛躍的に発展していることは言を俟たない。しかしながら聴衆を観察していると、コアなファンは厳然と存在するが、いわゆる入門者レベルの方たちはどうなのか。

私は地元甲府市で、毎月1回クラシック講座を開催している。今年で19年目を迎える。基本的に演奏を聴いてもらい、解説やエピソードを紹介したり、年間4～5回は著名アーティストをゲストに迎えてトーク・コンサートを楽しんでいただいている。現在年間パスポートでの参加者は190人を数えるが、中にはアルゲリッチの弾くプロコフィエフ「ピアノ協奏曲第3番」を聴いて、「このジャズ・ピアニストは誰ですか?」という人から、海外オケが来ると必ずコンサートに出かけるという猛者まで千差万別。ゆえに講座のテーマやプロットのクオリティには毎回気を遣い、初心者からトレーニングを積んだ方まで満足してもらえるような配慮をしている。

そこでもっともよく聞くのは、「解説をしてもらいながら聴きたい」という声。トーク付コンサートという形態も増えてはきたが、やはり現在の主流は演奏家が登場し、演奏が終わればハケるといった従来のスタイル。もちろん配布

プログラムに解説は載っているものの、読むことと誰かが説明することでは受け取り方が大いに異なるらしい。

そこで私は2012年頃からあちこちのホールを舞台に、「解説+コンサート」という手法での公演をプロデュースしてきた。それをさらに発展させ、辿り着いたのが「音楽劇」。まず作曲家をテーマに掲げ、例えばショパンであれば彼の人生を追い、初恋の人や婚約を破棄されたマリア、また10年近く生活を共にしたジョルジュ・サンドなどにスポットを当て、一人称から複数での台本を書き、私たちがショパンなどに扮して台本を朗読、その合間にアーティストに演奏してもらおう。もちろん私の容姿はショパンとは似ても似つかないので、巨大なパネルを舞台上に設置し、そこに肖像画を投影する。この方式はきわめて好評で、何より聴衆が作曲家と作品を密接に繋ぎ合わせて聴くことができる。ともすればクラシック作品はそれ自体が作曲家を離れ、ひとり歩きしている嫌いがあるが、作曲家の営みと作品は密接に結び付いているのは自明の理。作曲家がどういう状況の時、作品が生まれたかを実感することで、より深く作品を理解、愉しむことができるのである。

これまで甲府のYCC県民文化ホール、岡谷カノラホール、富士山河口湖音楽祭、中野坂上のベーゼンドルファー・ジャパン・サロン等で、モーツァルト、シューベルト、ショパン、シューマン、ブラームスなどをテーマとして取り上げてきたが、いずれも好評を博している。またアーティストには、なるべく若い人材にお願いし、私の無理な注文も聞いていただいている。

お陰さまで回を重ねるごとにお客様は増え、次回を期待する声も数多くいただいている。なにより嬉しいのは、「わかりやすく聴けた」という感想がたくさん寄せられていることだ。コンサートにはいろんな種類や形態があるが、今、私がやることは普段コンサートに行ったことのない方をホールに向かわせ、楽しんでもらい、クラシック・ファンになっていただくきっかけを作ることだ。人口増加が見込まれない昨今、いずれはクラシック・コンサートの聴衆が減少することも十分考えられる。その前にひとりでも多くのクラシック・ファンを増やしたい。それが最大の願いであり、ライフワークだと考えている。



音楽劇「ショパンはお好き?それともシューマン?」より

人から人へと受けついでゆく ローカルの音楽の温かさ

そ が だい すけ
曾 我 大 介

指揮者
東京ニューシティ管弦楽団正指揮者



私がちょっとしたご縁でルーマニアにコントラバスで留学したのは33年前。当時のルーマニアは共産主義国で、チャウシェスク大統領の恐怖独裁政権下にありました。経済政策の失敗で多額の対外債務を抱え、借金返済の焦燥感に駆られて飢餓輸出を行っていました。飢餓輸出とは、国民が飢えても、また冬場にエネルギー供給を制限して暖房が止まっても、輸入を極端に抑え、売れるものは何でも外貨獲得のために輸出しようという体制です。そのため、生活必需品を買うためには2～3時間行列に並ぶのは当たり前、冬場は厳寒にもかかわらず暖房がなく、凍死者が出るといった有様でした。

ブカレスト音楽大学コントラバス科のレベルは非常に高く、当時の在学生たちはいま世界の名だたる音大の先生やオーケストラの首席を務めています。ただ、前述の飢餓輸出のせいで、楽器も弦もボロボロで弓の張替えもままならず、楽器も自分たちで修理したりしていました。

留学生を送るなかで、ルーマニア人の音楽を愛する心を実感してゆきます。留学2日目に先生に連れられて行ったのはアテネ音楽堂(写真)。壁一面にルーマニアの歴史を一望するフレスコ画が描かれていました。当時もいまも紙幣の図柄になっていて、ルーマニアのランドマークたるコンサートホールです。冬場、外はマイナス20度なのに暖房もなく、弾く側も聴く側も帽子に手袋を着込んでいましたが、毎回のコンサートは常に満員で聴く人の心を温めていました。

1989年12月に独裁者の処刑という形で革命がおき、ルーマニアは混乱の時期を迎えます。そんな中、私は困窮するブラショフ市のフィルハーモニーに対する援助を武蔵野市に仰ぎました。オーケストラは1992年来日し、その時多数の楽器を贈りました。それがルーマニアと武蔵野市とのご縁の始まりで、今年の東京オリンピックでは武蔵野市がルーマニア

のホストタウンを務めることになりました。

ブラショフ市のフィルハーモニーとは、デビューの次の年以來30年にわたるおつきあいになります。当地のコンサートホールの柿落しの指揮者として呼ばれるなど、深いご縁が続いています。いまでは指揮を始めた当時の奏者のお子さんが団員であったり、革命後に生まれた世代もいたりして、当時のメンバーは両手で数えられるくらいになってしまいました。この月日の流れに、世代から世代へ受け継がれる血の通った人の音楽や、街や環境に育まれてゆくローカルの文化の温かさ、大切さを切に感じるのです。

ルーマニアは2007年にEUに加盟しました。未だ加盟国最貧国のひとつですが、人々の生活はようやく安定の兆しを見せている気がします。ただ、人口は減少し、私が留学した当時に比べ17%近い人口が他の裕福な国に流れています。特に優秀な若者はより良い就職先を求めて、EU諸国の大学で学ぶ傾向にあります。人材流出がこの国の将来に深刻な影響を与えるのではと最近とても心配しています。



曾我大介指揮・ブカレスト「ジョルジュ・エネスコ」フィルハーモニー交響楽団・合唱団
(アテネ音楽堂)

ご支援いただいている団体・企業

団体

(一社) 信託協会
石油連盟

(一社) 全国銀行協会
(一社) 日本鉄鋼連盟

(一社) 日本建設業連合会

ほか

企業

朝日生命保険(相)
アサヒグループホールディングス(株)
岩谷産業(株)
ANA ホールディングス(株)
(公財) オリックス宮内財団
小田急電鉄(株)
王子ホールディングス(株)
(株)河合楽器製作所
キッコーマン(株)
キヤノン(株)
キヤノンマーケティングジャパン(株)
KDDI(株)
三機工業(株)
JXTG ホールディングス(株)
(株)資生堂
清水建設(株)
信越化学工業(株)
スタインウェイ・ジャパン(株)
住友化学(株)
住友商事(株)
住友生命保険(相)
住友林業(株)
セイコーホールディングス(株)
積水化学工業(株)
(株)大和証券グループ本社

第一生命ホールディングス(株)
大成建設(株)
高砂熱学工業(株)
武田薬品工業(株)
中外製薬(株)
(株)TBS テレビ
(株)ティーワイリミテッド
(株)テレビ朝日
(株)電通
トヨタ自動車(株)
東京海上日動火災保険(株)
東京ガス(株)
東レ(株)
(一財)凸版印刷三幸会
(株)ニフコ
(株)日新
(株)日清製粉グループ本社
日通旅行(株)
日本ガイシ(株)
日本製紙(株)
日本製鉄(株)
日本生命保険(相)
日本電信電話(株)
野村ホールディングス(株)
浜松ホトニクス(株)

阪和興業(株)
(株)日立製作所
東日本旅客鉄道(株)
(株)フジテレビジョン
富士通(株)
富士フイルム(株)
双葉電子工業(株)
本田技研工業(株)
前田建設工業(株)
丸紅(株)
三井住友海上火災保険(株)
三井物産(株)
三井不動産(株)
三菱重工業(株)
三菱商事(株)
三菱地所(株)
三菱電機(株)
三菱マテリアル(株)
明治安田生命保険(相)
(株)ヤマハミュージックジャパン
ユニ・チャーム(株)
(株)龍角散
ローム(株)

編集だより

□交響楽振興財団にとっての「現場」は演奏会場です。ここで楽団奏者・スタッフ、指揮者、ソリスト、音楽事務所関係者、地元主催者・関係者などさまざまな人との出会いがあります。楽曲や演奏家に関する情報や、演奏会についての「気づき」を得ることも少なくありません。また、会津若松のように、ちょっとした出会いから8年後の巡回公演につながることもあります。これからも巡回公演やアマチュアオーケストラ演奏会の場を大切にしていきたいと思えます。

□当財団の演奏会にはこれまで100名近い指揮者が登場しています。その中で、円光寺雅彦さんは12月の長野第九演奏会で60回目の出演となりました。財団創立46年ですから、毎年1回以上振っていただいたこととなります。当財団としては、若手指揮者を積極的に登用する一方、ベテラン指揮者にも引き続き出演いただく所存です。

□今回は巻頭言を桐朋学園大学学長であり、かつジャーナリストとして長年音楽の世界を見てこられた梅津時比古さんにお願

いしました。音楽評論家の真嶋雄大さんは岡谷公演で何回かご一緒しましたが、本号では真嶋さんが行っている「音楽劇」についてご紹介いただきました。指揮者の曾我大介さんには、留学したルーマニアについて熱く語ってもらいました。ルーマニアと曾我さんと武蔵野市の関係がよくわかるエッセイです。武蔵野公演ではコンサートに加えて、楽器体験やルーマニアの食文化(料理やワイン)を味わう関連イベントがあり、盛り沢山の演奏会となりました。

□2020年3月1日現在の理事、監事、評議員、顧問は次のとおりです。

理 事：会長 原良也、専務理事 久保田政一、大谷康子
木村純子、三枝成彰、高松則雄、林寛爾

監 事：緑川正博、藤原清明

評議員：海老澤敏、川本裕康、小宮山淳、佐沢英紀
寺西基之、中島洋、野田暉行

顧 問：一柳慧、岩沙弘道、榊原定征、早川茂、渡文明

(敬称略・順不同)

公益財団法人 日本交響楽振興財団

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-9-3
電話 03-3253-2032 FAX 03-3253-0566
編集・発行人 林 寛爾

E-mail nihon@symphony.or.jp
U R L http://www.symphony.or.jp

2020年3月5日発行